日川高校図書館

図書館通信　vol. 7

こんにちは♪ 梅雨(つゆ)ですね。雨が降っていますね。じっとりした季節になってしまいましたね。じとじと。ヤダなぁ。北海道に移住したくなりますね（タメイキ）。せーやさんは本当に雨がキライでキライで（心まで湿ってしまうような気持ちになるからです）、梅雨で雨が続くと自分自身にもカビが生えてしまうのではと恐れるくらいユウウツになってしまうのですが、みなさんはどうでしょう？ 図書館ではせめて綺麗な紫陽花(あじさい)を飾って、ささくれた心を慰めています。そのために毎年紫陽花を買って、花が終わるたびに庭に植えていたものですから、せーやさんの家の庭は紫陽花だらけになってしまいましたw。紫陽花好きのせーやさんはぜんぜん困らないのですけれど。梅雨になくては困るもの。それは傘に、紫陽花、そして本です。雨の季節は図書館へ。しとしと。

『くるまの娘』　宇佐見りん

「こんなにも苦しく、どうしようもなく愛おしい」。**『推し、燃ゆ』**で芥川賞を受賞した著者の受賞後第一作！ あの**『かか』**よりもさらに先を行った前代未聞の家族小説です。「ウツ、とは体が水風船になることだとかんこは思う。毎日が水風船をアスファルトの上で引きずっているように苦しく、ささいなことで傷ついて破裂する」。ウツで不登校がちで学校に来ても寝てばかりの 17 歳のかんこの家族は壊れている。二年前に脳梗塞で倒れ、左半身に麻痺の後遺症が残り、パニックに陥っては過呼吸になり、突然泣き叫ぶことのある母。ひとたび火がつくと、人が変わったように残酷になり暴力を振るう父。頭おかしくなると学校をやめて家を出て行き結婚して新しい家庭をつくった兄。これから家を出る弟。祖母が危篤になり再び集結した一家は、かつての幸せだったあのころ、家族でよく旅行に行っては車中泊をしたのを再現しようとする…。「かんこはこの車に乗っていたかった。この車に乗って、どこまでも駆け抜けていきたかった」。タイトルの「くるまの娘」とは、その旅行のあとにかんこが車で寝起きするようになることから。「父も母も声にならない声で泣き続けた。かんこが、本気で親を守らなければと感じたのは、そのときがはじめてだったと思う」。「あのひとたちはわたしの、親であり子どもなのだ。ずっとそばにいるうちにいつからかこんがらがって、ねじれてしまった。まだ、みんな、助けを求めている」。「愛されなかった人間、傷ついた人間のそばにいたかった。背負って、ともに地獄を抜け出したかった」。苦しい。

『宙(そら)ごはん』　町田そのこ

「きっと、この物語はあなたの人生を支えてくれる」。本屋大賞受賞作**『52ヘルツのクジラたち』**をさらに突き詰めた家族小説の集大成！「思いがこもった料理は、ひとを生かしてくれる」。そして、料理の物語でもあります。宙には、育ててくれている「ママ」と産んでくれた「お母さん」がいる。物心ついたころには、厳しいところもあるが優しい母親の理想像のようなママ・風海(ふみ)に育てられていたが、実際のお母さんは月に一二度しか会えないママの三つ上の姉・花野(かの)なのだった。「お母さん」ではなく「カノさん」と呼ばせる彼女は幻のように美しく、思いっきり宙を甘やかせてくれて、「お母さん」どころか「大人」の感じもさせない魅力的な彼女のことが大好きだったけれど、それはたまにしか会わないからだったと宙は気づくことになる。宙が小学校に上がるとき、夫の海外赴任に同行する風海のもとを離れ、花野と暮らし始めることになったのだ。待っていたのは、イラストレーターの仕事に夢中で日常は後回し、ごはんも作らず子どもの世話もしない、授業参観には来ないのに恋人とデートには行く母親との生活だった。幻滅させられてばかりの花野についには「やっぱ、無理。引き取るんじゃなかった」とまで言われ、家を飛び出した宙を救ってくれたのは、家にごはんを作りに通ってくれていた佐伯だった。花野のことが好きで、商店街のビストロで働く佐伯は、とっておきのパンケーキを作ってくれたのだ。それは、風海が家族が元気になるために作ってくれた魔法の料理だった。宙は、佐伯から花野が「可愛がり方」を知らないのだと教わる…。「一緒に食べる、それだけで胸が温かくなる。もう大丈夫だ、そんな気持ちになる」。ここまでが第一話。このまま、ほっこりとしたやさしい物語で終わることもできたでしょう。ですが、町田その子さんはそれをよしとはせず、その先へと突き進んでしまうのです。詰め込みすぎなほどに家族の問題を詰め込んで。宙も花野も成長していきます。ラストにふたりがたどり着いた場所をぜひ確認してください。

『夢をかなえるゾウ０　ガネーシャと夢を食べるバク』　水野敬也

Ｇ先生もＯ先生もオススメ！ 日本一読まれている自己啓発小説です！ しっかり笑わせてくれて、タメになる教えまで与えてくれる、まさに神！のシリーズ最新作は「エピソード０」！「『夢』がないやて？ ほな『夢の見つけ方』教えたろか」。上司のパワハラに悩む平凡な会社員を「宇宙一の偉人に育てる」と宣言したガネーシャ。しかし、彼にはぜんぜん「夢」がなくて…。夢を食べるバクとガネーシャの父・シヴァ神も登場！

☆『ＥＤＮＥ（エドネ）』　junaida

ヨシタケシンスケ、ヒグチユウコに続く絵本作家はこのひと！**『Ｍｉｃｈｉ』『の』『怪物園』『街どろぼう』**と次々に革新的な作品を発表し、10 月からは立川の PLAY!MUSEUM で個展の開催が決定している junaida さんの最新作は、あの**『はてしない物語』**や**『モモ』**の**ミヒャエル・エンデ**の小説**『鏡のなかの鏡ー迷宮』**へのオマージュです。エンデではなく、エドネ。逆さに読んだのですね。この作品集にも仕掛けがあります。見開きの左右のページが、鏡に映し出されているかのように対称になっているのです。完璧なシンメトリーは、ほんの少しだけ壊されています。右側のページには『鏡のなかの鏡』の一節の和訳、そして左側のページには英訳があります。「夢の住人たちは、どこか誰かの夢の中で、さらに別の夢の扉を開いていく。目覚めることを、禁じられたまま」。鏡。迷宮。扉。サーカス。道化。物語。夢。幻想的なエンデの世界を junaida さんがよりイメージを膨らませてビジュアル化。「ふたたび眼をひらくと、すでにもうひとつ別の現実のなかにいる」。「夢変化（ゆめへんげ）。それは新しい物語をひとつ考え出して、自分でそのなかへとびこむことなんだ」。

『ヘヴン』　川上未映子

残念ながら受賞はなりませんでしたが、世界的に権威のある英国の文学賞「ブッカー国際賞」の最終候補に！ 2009 年に刊行された作品ですが、そのメッセージはいまなお鮮烈！ 斜視のために苛められている僕のふで箱に、＜わたしたちは仲間です＞というメッセージが入っていた。差出人は、同じクラスの女子・コジマで、彼女もまた家が貧乏であることや不潔であることで苛められていた。コジマと手紙のやりとりをするようになった僕は、夏休みの最初の日に「ヘヴン」へ行くようコジマから誘われる。電車に乗って着いた先は美術館だった。ヘブンとはコジマがいちばん好きな絵なのだと言う。コジマはヘブンを見る前に泣き出してしまい、二人で見ることは叶わなかった。コジマは僕の目がとても好きだと言ってくれた…。ちなみにコジマが見せたかった絵は、シャガールの喜びにあふれた「誕生日」です。ぜひ、キミたち高校生に読んでもらいたい作品です。

『少年』　川端康成

「私はしげしげ彼の閉じたまぶたを見る」。没後五十年を記念して初の文庫化。「あのカワバタがＢＬを！」とその界隈で騒がれている作品！ 旧制中学の寄宿舎で同室だった、何も知らぬ純粋な後輩に寄せた川端の想い。「なんと美しい人だったろう」。

『物語 ウクライナの歴史 ヨーロッパ最後の大国』　黒川祐次

「ソ連にとってのウクライナってなに？ 略奪すべき農地よ」。これは、ロシアのウクライナ侵攻のまえに刊行され、本屋大賞を受賞した**『同志少女よ、敵を撃て』**のセリフです。これを読んだとき、どれほどの人がウクライナについて知っていたでしょうか？ ウクライナの歴史を物語にまとめたこの本のサブタイトルは「ヨーロッパ最後の大国」です。1991 年に独立を果たしたウクライナは、ヨーロッパではロシアに次ぐ大きな国だったのです。人口もスペインやポーランドよりも多いのでした。穀倉地帯として知られますが、耕地面積は実にフランスの二倍あります。一方、大工業地帯でもあるのでした。「国がなかった」ために、ロシア帝国やソ連の陰に隠れてしまっていたウクライナ。その豊穣なる歴史を、ぜひ学んでください。再びロシアに蹂躙されることなど許されないと、きっと感じることでしょう。エリア・スタディーズの**『ウクライナを知るための65章』**も！

『100均グッズ改造ヒーロー大集合』　安居智博

面白い！ とにかく実物の写真を見てほしい本！ 紙で作った「カミロボ」、その発展形のブルボンのルマンドや高島屋の包装紙のロボット化「プリント柄カミロボ」が評価され、『Newsweek』誌の「世界が尊敬する日本人 100」に選ばれたこともあるクリエイターが目をつけたのは、100 均グッズ！ おべんとうのタレビン（醤油とかソースが入ってるあれ）、ラムネ菓子の容器、灯油ポンプ…。身の回りにあるそれらだけを素材にして、ヒーローやロボットを作ってしまったのです！ バランでできたヒーローが「その件、俺に仕切らせてくれ！」、黄色いゴムつきの軍手は「いつもやさしく包んでくれてどんな時も絶対にすべらない」など、コメントも冴えわたっています！ 変身したお風呂に浮かべるラバーダックや空気で動くぴょんぴょんカエルの凜々しさといったら！ 個人的には、スタイリッシュな初心者マークロボ「ワカバー」、天使めいたバドミントンシャトルの「バドミン」、クリスマスツリーのお星さまがゴールドにきらめく騎士がツボでした。「見慣れたものを少しだけ違う角度から見てみると、どんな感じがするだろうか」。日用品のデザインのすばらしさ！

―――junaida さんが大好きなせーやさんは、『怪物園』の怪物たちが一面にプリントされたシャツがお気に入りです♪ graniph というブランドで、五味太郎の動物たちやミッフィーちゃんのかおだらけのものも。これらを着ると、最強の「絵本をまとう司書」になることができます♪ では、図書館で。